



こそだて通信

かしのき保育園 2012年度 No.2

== こどもの「うそ」 ==

子どもが3歳頃になって言葉が増えてくると、嘘をつくことがあります。「子どもが嘘をつくようになった」「嘘をつくような子どもに育ててほしくない」と心配されるお父さんお母さんがいらっしやいますが、保育園の時期の子どもの「うそ」には成長過程の特徴として次のものがあります。

- ① 空想としてのうそ「公園に妖精がいた」
 - ② 願望としてのうそ「うちにはイヌもネコもキングョもいるんだ」
 - ③ 自己防衛のうそ「わたしが（ぼくが）やったんじゃない」
 - ④ 関心を持ってほしいためのうそ（認められたい・注意をひきたい）
 - ⑤ 誘導尋問の結果としてのうそ（大人の期待に応えた・面倒だった）
- ① ②は特に否定せず、「そうなのね」と子どもの心を守ってあげましょう。では③と④に関してはどうでしょうか。

③ 親や大人に叱られないために「やってない」と言い張るような時です。こんな時、「また嘘ついて！」と更に叱ってしまいそうですが、これでは子どもが萎縮するか、意地を張って言い合いになるかでしょう。「〇〇の理由でそれはしてほしくないのよ。正直に言ってくれたほうが嬉しいよ。」ということを手静かに伝えていってください。

④ 「おなかがいい」「〇〇ちゃんがいじわるした」と言うけれど、事実とは違うことがあります。これは、親に心配してもらいたいための嘘（大げさな表現）です。本人は嘘をついたとは思っていません。「お腹なんて痛くないでしょ」と取り合わないよりは、側にいてほしいのかな、というサインと思いお腹をさすってあげましょう。また、「いつ、どこで、どんなふうにいじわるされたの」と問いただすよりは、お子さんの“かまってほしい”という気持ちを汲みとって「そうなんだ、嫌だったね」と聞いてあげれば、案外すっきりと子どもは切り替えたりするものです。

行動には理由があります。困った行動のその裏にあるお子さんの気持ちはなんでしょうか。子どもの気持ちに寄り添える大人でありたいものです。

(臨床心理士 藤井あづさ)